
■■■ 福祉社会学会ニューズレター 第79号 ■■■
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.79

[http:// jws-assoc.jp/](http://jws-assoc.jp/)
E-mail: maf-ws@mynavi.jp

***** INDEX *****

- 総会報告
- 会長就任にあたって
- 学会員・新入会員
- 第23回大会関連
- 第24回大会のお知らせ
- 福祉社会学文献ガイドについて
- 『福祉社会学研究』第22号刊行と第23号の投稿募集
- 福祉社会学会2025年度活動方針
- 第12期福祉社会学会役員
- 第8回福祉社会学会賞 選考結果
- 理事会報告
- 学会費納入のお知らせ
- 事務局からのお知らせとお願い

■総会報告

大会初日の午前中に理事会（新旧合同）が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、2日目午後に総会が開催されました。総会の開始にあたり高野会長と白波瀬大会実行委員長の挨拶がなされ、引き続き井上智史会員（九州大学）が議長に選出され、井上議長の進行のもと、以下の報告と審議が行われました。

●報告事項・審議事項

1. 庶務・事務局：米澤庶務理事より、学会の現況として、2025年6月28日現在の会員数は489名であること、ニューズレター第79号を7月末に発行すること、ホームページリニューアルについて報告された。
2. 研究委員会：三井研究委員長より以下が報告された。(1) 研究委員会の開催実績、(2) 第23回大会に関するプログラムと参加費の内容 (3) 2024年度中に開催した関連研究会の内容、(4) 研究委員会会計の執行状況。
3. 編集委員会：上村編集委員長より以下が報告された。(1) 編集委員会の開催実績、(2) 『福祉社会学研究』22号の構成、(3)論文掲載状況

4. 社会学系コンソーシアム：鎮目理事より、2024年度のシンポジウム（「〈原爆〉をめぐる記憶と継承」）に関して報告がなされた
5. 社会政策関連学会協議会：藤間委員より、2024年度公開シンポジウム「学会の将来を考える」の報告がなされた
6. 2024年度決算の提案・監査報告：寺田理事より、2024年度決算案が提示された。引き続き金子監事より、同案の監査報告がなされ、決算案が承認された。
7. 2025年度活動方針の提案：米澤庶務理事より「2025年度活動方針案」が提示され、承認された。
8. 2023年度予算の提案：井口理事より2025年度予算案が提示され、承認された。
9. 選挙管理委員会報告：平野委員長により、第12期理事選挙による10名の当選者が報告された。
12. 会長・副会長の選出：米澤庶務理事より、福祉社会学会役員選出規程第1条3および同条4に基づき、高野和良会員を会長、阿部彩会員を副会長とすることが提案され、承認された。
13. 新役員・委員会構成：鎮目庶務理事より新役員について提案がなされ、承認された。
14. 第8回福祉社会学会賞選考委員会報告および表彰：白波瀬学会賞選考委員長より、選考委員による審査の結果、学術賞2件、奨励賞2件（書籍・論文）受賞作とすること、その選考理由が述べられた。続いて、高野会長より受賞者に学術賞の授与が行われた。
17. 第24回大会開催校の提案：高野会長より、2025年に開催される第24回大会を中央大学多摩キャンパスで開催することが提案され、承認された。開催校の天田理事による挨拶を庶務理事が代読した。

以上の報告事項・審議事項の後、米澤庶務理事が閉会を告げ、第23回大会総会はずつがなく終了しました。

■会長就任にあたって

高野和良（九州大学）

2025年度総会で選出され、第11期に続いて第12期の会長を務めさせていただくことになりました。前期に引き続き今期も総会で承認された活動方針に基づき、会員のみなさまのご支援をいただきながら、学会活動を進めてまいります。

学会の役割として、研究成果の共有や会員間の交流の機会としての研究会を企画し、開催することは、とても大切であると考えています。前期では、コロナ禍を経て学会活動を概ね従前の姿に戻すことがで

きましたが、今期も引き続き多くの研究会開催を実現できればと考えています。

また、懸案であった学会ホームページのリニューアルを行い、先日公開いたしました。学会創設から数えると20有余年にわたって更新され続けてきた従来のホームページも素朴でなかなか味のあるものでしたが、新たなホームページを通じて情報発信と研究成果の対外的発信を着実に進めることができればと思っております。

微力ではありますが、これから2年間の任期を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■学会員・新入会員

2025年6月28日現在の学会員数は489人です。6月の新入会員は下記の通りです(Web版では略)。

■第23回大会関係

第23回福祉社会学会大会が、去る2025年6月28日・29日に関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにて開催されました。参加者は122名でした。

■第24回大会のお知らせ

福祉社会学会第24回大会は、2026年春に中央大学(多摩キャンパス)で開催します。詳細は決まり次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

■福祉社会学文献ガイドについて

福祉社会学会では、2023年に『福祉社会学文献ガイド』(学文社)を刊行いたしました。本書は、福祉社会学に関わる古典的文献を網羅した、研究・教育で役立つ便利なブックガイドです。会員の皆様には、ぜひご購入いただくとともに、授業利用や所属先図書館へのご推薦もお願いいたします。

『福祉社会学文献ガイド』の紹介HP(学文社)
<https://www.gakubunsha.com/book/b636249.html>

【文献ガイド掲載書の著者一覧】

第1部 福祉社会学の枠組み—理論と方法

エミール・デュルケム、マックス・ヴェーバー、シドニー・ウェッブ、ビアトリス・ウェッブ、ジョン・ロールズ、ミシェル・フーコー、イエスタ・エスピン-アンデルセン、アマルティア・セン、ロバート・D. パットナム、フリードリヒ・エンゲルス、トマス・H. マーシャル、アーヴィング・ゴフマン、エリオット・フリードソン、マイケル・オリバー

第2部 福祉社会学の諸領域

ジョン・F.エンブリー、アーリー・R. ホックシールド、レイ・オルデンバーグ、サスキア・サッセン、アルヴァ・ミュルダール、ヴィオラ・クライン、フィリップ・アリエス、アードマン・B. パルモア、ハワード・S. ベッカー、ウィリアム・

J. ウィルソン、ピエール・ブルデュー、ジョック・ヤング、ルース・リスター、セルジュ・ポーガム

第3部 福祉政策と実践

ウィリアム・ベヴァリッジ、カール・ポラニー、リチャード・M. テイトマス、ハロルド・L. ウィレンスキー、ノーマン・ジョンソン、副田義也、ジョン・K. ガルブレイス、アンソニー・ギデンズ、トニー・フィッツパトリック、キャロル・ギリガン、クレア・アンガーソン、英国保健省、アンソニー・ギデンズ、マーサ・A. ファインマン

■『福祉社会学研究』第22号刊行と第23号の投稿募集

(第23号の投稿締切は9月1日必着です。)

●【第22号の刊行】『福祉社会学研究』第22号(Journal of Welfare Sociology, No.22)が刊行されました(ISSN 1349-3337 ISBN 9784762034343)。目次は以下のとおりです。

■ 特集論文 I

■ 特集論文 I 福祉社会と〈声〉の政治

福祉社会と〈声〉の政治……………	竹端寛・岡部茜
声の統治と再生現状を支える／支えない主体……………	桜井智恵子
強制不妊手術はどのように「問題」化されたのか ——「声にならぬ声」をめぐる……………	土屋葉

■ 特集論文 II

人が生まれ育つのを社会的にどう支えるか——こども家庭庁の創設をうけて

第20回大会シンポジウム解題 「人が生まれ育つのを社会的にどう支えるか ——こども家庭庁の創設をうけて」に寄せて……………	畑本裕介
ヤングケアラー支援が提示するもの ——“大ごと”にならないサポートの仕組みをどう作るか……………	澁谷智子
「子どものために」を問い直す ——子どもとのパートナーシップを築くアドボカシーの実践から…	川瀬信一・安藤藍
「こどもまんなか社会」と若者 ——誰が、どのように「まんなか」に位置づけられるのか……………	岡部茜

■ 自由論文

準市場における反転した選択 ——訪問介護事業所のクリームスキミング行動の分析……………	山根純佳
校内居場所カフェをめぐる支援観 ——教師・スタッフの語りに着目して……………	中西美裕
サービスラーニング型授業での再帰性実践の可能性 ——社会学的想像力の涵養を目指して……………	桜井政成・加野佑弥

■ 書評

土屋敦・藤間公太編『社会的養護の社会学 ——家庭と施設の間にたたずむ子どもたち』……………	野辺陽子
三井さよ『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学 ——多摩とたこの木クラブを研究する』……………	山下幸子
竹端寛『ケアしケアされ、生きていく』……………	室田信一
本多真隆『「家庭」の誕生 ——理想と現実の歴史を追う』……………	藤崎宏子
樋口麻里『精神障がいのある人を排除する社会でよいのか	

——国際比較調査からみる人間の価値』……………	山村りつ
安立清史『福祉社会学の思考』……………	米澤旦
筒井淳也・山根純佳・上村泰裕編『岩波講座社会学第9巻	
——福祉・社会保障』……………	藤村正之

●【『福祉社会学研究』第23号の原稿募集について】

下記要領で、『福祉社会学研究』第23号の自由投稿論文を募集します。

1. 投稿資格：本会会員に限ります。2025年度の加入者については、2025年6月28日開催の理事会までに入会済みであることが条件となります。
2. 論文の種類：自由投稿論文
福祉社会学研究の学術論文とします。
3. 掲載の可否：レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します。
4. 締切：2025年9月1日（月）23時59分必着
5. 論文の分量：20,000字以内（図表等含む）とします。スペースは字数に含めません。
6. 投稿規程、執筆要領：
 - 投稿規程、執筆要領は『福祉社会学研究』最新号および学会ウェブサイトで必ず確認してください。
 - 論文の分量が超過するなど、投稿規定や執筆要領が守られていない場合には、投稿論文は受理されません。文字数については「投稿申込書」の「(5) 論文の字数」で明示しているとおり、Microsoft Wordの「文字カウント」機能の「文字数（スペースを含めない）」に表示される字数にて本文をカウントし、図表は執筆要領ならびに投稿申込書のとおりに換算してください。この方式にて数えた総字数（本文の字数＋図表の換算字数）が20,000字を超えた投稿論文については受理しませんので、くれぐれもご注意ください。会員の皆さまにおかれましては投稿規程、執筆要領、投稿申込書等を十分にご確認のうえ、投稿してください。
 - 書式等形式については、投稿規程・執筆要領の遵守を第一とし、投稿規定・執筆要綱に記載されていない点については、日本社会学会編集委員会『社会学評論スタイルガイド』第3版への準拠をお願いします。
 - 投稿は紙媒体ではなく電子ファイルで行います。投稿の際は、Microsoft Wordの文書ファイルの形式で、メールにて下記編集委員会事務局までお送りください（パスワードを付けた場合には別のメールにてパスワードをお知らせください）。紙媒体の提出は一切必要ありません。
 - 「投稿申込書」は、学会ウェブサイトからダウンロードしてください。
 - 投稿にあたっては、学会ウェブサイトから「自己チェックシート」をダウンロードして、すべての各項目について必ず確認してください。この「自己チェックシート」を提出する必要はありません。
 - なお、原則として、編集委員会に届いたファイルの差し替えはできませんので、十分に確認のうえ、お送りください。

- 投稿論文を添付するメールの件名は「自由投稿論文送付の件」としてください。
7. 提出先、問い合わせ先：
- メールアドレス ws2025submit★googlegroups.com (←★を@に変えてください)
- 福祉社会学会 編集委員長
 - 法政大学社会学部 三井さよ
 - 〒194-0298 町田市相原町 4342
8. 受領通知：投稿受領後に受領通知をお知らせします。受領通知の発行をもって、論文の投稿が成立します。投稿後 1 週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には、上記編集委員会事務局までお問い合わせください。

●書評対象書の募集について

『福祉社会学研究』第 23 号でとりあげる書評対象の著作を募集します。

福祉社会学および関連分野の書籍で、会員の著作であること、単著であることを原則としますが、共著・編著でも書評対象とすることがあります。以下のフォームにご記入ください。なお、9 月初旬の編集委員会で書評対象に選定された場合、対象書を一冊ご提供いただくことになります（選定前の献本はお控えください）。

入力フォーム：

<https://forms.gle/Lng179ktaciJhqiV7>

■福祉社会学会 2025 年度活動方針

1. 福祉社会学会は、これからも、福祉（welfare, well-being）や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第 23 回大会を、2025 年 6 月に関西学院大学で開催します。2026 年度開催の第 24 回大会についても、その準備を進めていきます。
3. 機関誌『福祉社会学研究』の第 23 号の刊行に向けて、編集作業を進めていきます。
4. 大会に加えて、多様な研究テーマに基づく研究活動に積極的に取り組み、あわせて学会活動の国際化に向けての取り組みを継続します。
5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携に努めていきます。
6. 学会活動や研究成果の対外的発信にいっそう努めていきます。

7. 会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供に努めていきます。

8. 学会として、ハラスメントのない風通しのいい研究の場となるよう努めていきます。

■第12期福祉社会学会役員

・役職者構成

会長：高野和良（九州大学）

副会長：阿部彩（東京都立大学）

庶務理事：井口高志（東京大学）

研究委員長：白波瀬達也（関西学院大学）

編集委員長：三井さよ（法政大学）

・理事

阿部彩、天田城介、井口高志、岩永理恵、稲葉昭英、上村泰裕、白波瀬達也、須田木綿子、藤間公太、深田耕一郎、三井さよ、三谷はるよ、室田信一

・監事

亀山俊朗（中京大学）、株本千鶴（椙山女学園大学）

・研究委員会

委員長：白波瀬達也（関西学院大学）

副委員長：藤間公太（京都大学）

委員：池田裕（法政大学）、相良翔（埼玉県立大学）、佐藤桃子（大阪大学）、関水徹平（明治学院大学）、三輪清子（明治学院大学）、山下亜紀子（九州大学）、吉武理大（山口大学）

・編集委員会

委員長：三井さよ（法政大学）

副委員長：室田信一（東京都立大学）

委員：角崎洋平（日本福祉大学）、富江直子（茨城大学）、中根成寿（立命館大学）、根岸弓（横浜市立大学）、原田玄機（高崎経済大学）、平野寛弥（上智大学）

・社会学系コンソーシアム

理事・評議員：稲葉昭英（慶応義塾大学）、須田木綿子（東洋大学）

・社会政策関連学会協議会

協議員：岩永理恵（日本女子大学） 藤間公太（京都大学）

・学会賞選考委員会

委員長：上村泰裕（名古屋大学）

・事務局

事務局長：井口高志（東京大学）

副事務局長：三谷はるよ（大阪大学）、深田耕一郎（女子栄養大学）

・顧問

庄司洋子（立教大学名誉教授）、武川正吾（東京大学名誉教授）、三重野卓（山梨大学名誉教授）、藤村正之（上智大学）、平岡公一（東京通信大学）

■第8回福祉社会学会賞 選考結果

◆学術賞

・三井さよ（2023）『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学 ―多摩とたこの木クラブを研究する』生活書院

・吉武由彩（2023）『匿名他者への贈与と想像力の社会学 ―献血をボランティア行為と読み解く』ミネルヴァ書房

◆奨励賞

奨励賞（著書）

・陳勝（2024）『当事者が語る「貧困とはなにか」 ―参加型貧困調査の可能性』北海道大学出版会
奨励賞（論文）

・長谷川拓人（2023）「ヤングケアラーにとっての離家」『福祉社会学研究』20，215-236.

(1)選考経過

第8回目である今回の選考は、2023年1月1日から2024年12月31日までの2年間に刊行された研究業績が審査対象となった。学術賞の受賞資格者はすべての会員、受賞対象は単著の著書であり、奨励賞の受賞資格者は修士課程入学後13年以内もしくは博士課程入学後11年以内の会員、受賞対象は単著の著書あるいは本学会誌または他の学会誌等に掲載された査読付の論文である。

委員は、安藤藍（千葉大学）、金成垣（東京大学）、三谷はるよ（大阪大学）、白波瀬達也（関西学院大学）である。

2025年1月9日に推薦の受付を開始し、推薦方法などをニューズレターと学会HPを通じて告知した。2025年1月9日から2月10日までを受付期間として、会員および選考委員から推薦を受付けた。また、奨励賞（論文）については期間中の『福祉社会学研究』の投稿論文（自由論文）のうち、資格要件をみたすものはすべて検討対象とした。また、『福祉社会学研究』に掲載された書評対象本については奨励賞（著書）および学術賞の検討対象とした。

この結果、奨励賞（論文）7件、奨励賞（著書）2件、学術賞4件が選考の対象となった。

奨励賞の候補となった論文については委員全員がすべての論文を読んで評価した。奨励賞の候補となった著書および学術賞の候補となった著書について選考委員長は全て担当し、それ以外の選考委員は1人最低3冊担当した。全員の評価結果を一覧表としてまとめたものを資料として、選考委員会を6月13日にオンラインにて開催した。

(2) 選考理由

学術賞

・三井さよ (2023) 『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学 ―多摩とたこの木クラブを研究する』生活書院

本書は東京の多摩地域で積み重ねられてきた重度知的障害者や自閉の人たちの社会運動を取り上げた研究書である。ルーマンの「ダブル・コンティンジェンシー」の視点を活用し、知的障害・自閉の人たちとのかかわりにおける捉えかえしのプロセスを読み解く労作である。本書が取り上げるのはローカルで小規模な社会運動だが、その歴史を丹念に追うことで「共に生きる」ためのネットワークが生成・拡張してきたことが明らかにされている。歴史的な記述の精緻さに加え、本書の特徴となっているのが著者自身の失敗談も含む丁寧な参与観察の記述である。重度知的障害者や自閉の人たちと共に生きる社会運動を外側から描写するのではなく、著者自身が介助の担い手として現場に巻き込まれながら内側から描写する筆致は圧倒的なリアリティがあり、その点を高く評価した。「15年の参与観察に基づく奮闘の結実」という表現が相応しい。本書は支援の現場に従事する人々への実践的示唆に富むことはもちろん、「他者」との共生のあり方を質的に掘り下げた第一級の学術書として評価できる。

・吉武由彩 (2023) 『匿名他者への贈与と想像力の社会学 ―献血をボランティア行為と読み解く』ミネルヴァ書房

先行研究のレビュー、調査方法、分析の全てが手堅くまとまっており、優れた学術書として評価した。本書のタイトルにもなっている「想像力」の規定要因は本書の調査研究から必ずしも明確にされたわけではない。しかし、本書が福祉社会科学研究の系譜にしっかりと位置づいている点を高く評価した。ボランティア研究のなかでは、献血をテーマにしたものは稀だが、「匿名他者」や「受血者不在」といった概念を用いて、先行研究では十分に解明されていなかったボランティア行為のメカニズムを浮き彫りにした点は本書の優れた点である。本書の知見は献血に携わる現場において今後の対策の指針になりうるものであり、実践上の意義が極めて大きい。また、「匿名他者への贈与」という概念をキーワードに設定した本書は献血研究のみならず、今後のボランティア研究に新たな視角を提供することが期待できる。

奨励賞（著書）

・陳勝 (2024) 『当事者が語る「貧困とはなにか」 ―参加型貧困調査の可能性』北海道大学出版会

参加型貧困調査に関する先行研究のレビューが綿密である点が高く評価できる。本書がきっかけとなり日本で参加型貧困調査を根付かせる期待が持てる。調査手続きも手堅く、比較することを前提にしたグ

ルーピングが徹底されていた点も高く評価できる。本書は

日本の福祉社会学の系譜から考えると必ずしも王道の研究ではないが、先行研究のレビューや調査手続きの精緻さは奨励賞に十分値する内容であった。

また本書が留学生によって書かれた点も高く評価したい。聞き取り調査は主に日本語で行われたことが推測されるが、母語ではない言語で、質の高いインタビューが実行できている点に驚かされた。調査対象者に外国人の留学生と労働者を加えている点は、著者の立場性が大きく影響していると思われる。このような点は本書のオリジナリティに関わる重要なポイントである。

著者は同じグループに対して3回のインタビューを実施しているが、回を重ねるごとに対象者の貧困に対する理解が深まる様子がリアルに描写できている。ただし、重要な知見の部分で参加者の同意を得ていない点もあり、参加型調査を遂行する上での課題も見出された。また、本書の対象者となった貧困当事者は「語ることができる人たち」だが、「声」をもたない人はどのように捉えうるのか、という疑問も生じた。このように本書の成果は論争的な部分と呼び起こす側面があるが、それでもやはり福祉社会学研究に一石を投じる有意義な研究であり、奨励賞に相応しいと判断した。

奨励賞（論文）

・長谷川拓人（2023）「ヤングケアラーにとっての離家」『福祉社会学研究』20，215-236

手堅い方法でインタビュー調査が実施されていること、先行研究に対する新しい視点を提示していることを高く評価した。結論が素直過ぎるという評価もあったが、調査の結果を超えて社会的文脈との関連から考察が行われている点、政策的示唆が説得力を持っている点を高く評価した。今後の研究の発展可能性にも鑑みて奨励賞に相応しいと判断した。

■理事会報告

福祉社会学会 2025 年度 第1回理事会（新旧合同）

2025 年 6 月 28 日 11 時 30 分～12 時 45 分 関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）G 号館 209、オンライン併用

第11期理事：阿部彩、天田城介、岩永理恵、上村泰裕、金成垣、鎮目真人、白波瀬達也、大日義晴、高野和良、寺田貴美代、藤間公太、三谷はるよ、三井さよ、米澤旦

第12期理事：阿部彩、天田城介、井口高志、岩永理恵、稲葉昭英、上村泰裕、白波瀬達也、須田木綿子、高野和良、藤間公太、深田耕一郎、三谷はるよ、三井さよ、室田信一

議事に先立って新旧の理事の自己紹介が行われた。

●報告事項・審議事項

1. 新旧理事・紹介、新役員の構成について
2. 研究委員会報告：三井委員長より、活動状況と引継事項について報告があった。
4. 編集委員会報告：上村委員長より、活動状況と引継事項について報告があった。
5. 学会賞選考委員会報告：白波瀬井理事・学会賞選考委員長より、第8回学会賞選考の経緯と選考結果、引き継ぎ事項について報告があった。

6. 社会学系コンソーシアム報告：天田理事より、報告があった。
7. 社会政策関連学会協議会報告：藤間理事より、報告があった。
8. 2024年度決算案の承認・監査結果について：寺田理事より決算案と監査結果の説明があり、審議の結果、総会に諮ることを承認した。
9. 2025年度予算案の承認について：寺田理事より2025年度予算案の説明があり、審議の結果、総会に諮ることを承認した。
10. 2025年度活動方針案について：米澤庶務理事より原案が提案され、審議のうえ一部修正し、総会に諮ることを承認した。
・項目として、「8. 学会として、ハラスメントのない風通しのいい研究の場となるよう努めていきます。」を付け加えることとして、承認された。
11. 次回大会開催について：第24回大会は2026年6月に中央大学（多摩キャンパス）にて開催することについて、総会に諮ることを承認した。
12. 新規入会者の承認：米澤庶務理事より、新規入会希望者31名の入会申込書が提示され、入会を承認した。
13. 庶務・事務局報告：米澤庶務理事より、2024年度の入退会状況と2024年6月28日現在の一般会員数が489名であること、ホームページのリニューアルが報告された。
14. 総会の運営について：米澤庶務理事より総会の議事次第案が提案され、審議のうえ一部修正し、議事次第を承認した。

■学会費納入のお知らせ

本年度の学会費の納入のための振込票を8月以降にお送りします。納入をお願い申し上げます。

■事務局からのお知らせとお願い

●大会総会で新役員構成が承認されたのを受けて、学会事務局の所在地が以下のように変更になりました。

学会事務局所在地

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3-1 東京大学大学院人文社会系研究科社会学 井口高志 研究室

住所変更やEmailのアドレスを変更した場合は、必ず毎日学術フォーラム・福祉社会学会担当宛（maf-ws★mynavi.jp）（←★を@に変えてください）お知らせください。周辺でNewsletterを受信できていない方がいる場合は学会アドレスまでご連絡くださいますようお願いいたします。

そのほか、会員からの研究会等の情報を研究委員会で受け付けております。研究会等の情報（名称、日時、場所、報告者、報告内容、問い合わせ先など）を、研究委員会（shirahasetatsuya★kwansei.ac.jp）（←★を@に変えてください）までお寄せください。

【発行・編集】 福祉社会学会事務局